第46回

北大形成外科
アカデミー

2023. 12.2 (sat)

15:30-17:00

京王プラザホテル札幌

Session 1

大学院生研究発表

- リンパ節移植術の再疎通率向上を目指して一活性化大網を用いた検証　北條正洋
- 悪性腫瘍に対する局所陰圧閉鎖療法の影響　石井浩子
- 頭頸部原発皮膚悪性腫瘍における原発部位とリンパドレナージパターンの解析と予後に関する検討　西尾卓哉
- 羊膜由来間葉系幹細胞による感染性糖尿病性潰瘍における細菌抑制作用の検討　石井　陸
- 腫瘍溶解性ウイルスと抗PD-1抗体の併用によるメラノーマ免疫賦活化の検証　佐々木雄輝
- マウスにおける異所性リンパ節移植によるリンパ流誘導への試み　徐　東經
- マウス熱傷モデルを用いた羊膜由来間葉系幹細胞の皮膚深達性急性創傷に対する効果検証　松田識郁

Session 2

教育セミナー

「最新の皮膚悪性腫瘍治療指針：NCCN＆皮膚悪性腫瘍診療ガイドラインを読み解く＆症例供覧」

前田　拓

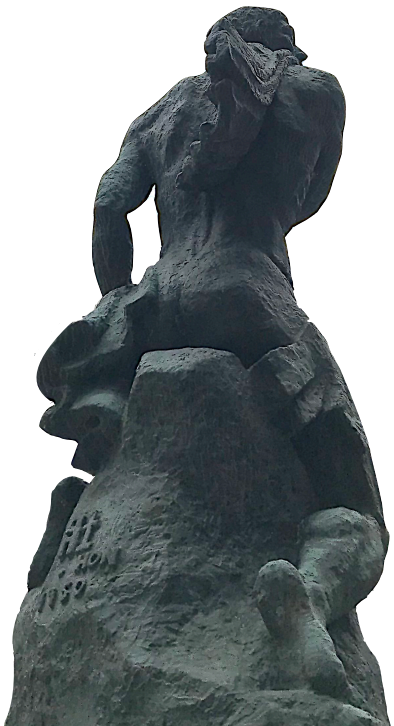
代　　表：山本有平

事　務　局：北海道大学医学部形成外科学教室

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

e-mail : info@prs-hokudai.jp

運営委員長：石川耕資



PROGRAM

Session 1

大学院生研究発表

（15:30~16:12）6分×7
Moderator：前田　拓

リンパ節移植術の再疎通率向上を目指して－活性化大網を用いた検証

北條正洋

重症リンパ浮腫に対する治療として、血管柄付きリンパ節移植術の有用性が近年報告され、これまでに大網移植術に関する動物モデルの開発・研究を行ってきた。二次リンパ組織である大網は、一定の刺激を受けると活性化し、各種サイトカインを豊富に産生する。今回、これまで検証してきた大網移植モデルに対し、大網を活性化する追加検証を行ったため、現在までに得られた知見を報告する。

悪性腫瘍に対する局所陰圧閉鎖療法の影響

石井浩子

現在、局所陰圧閉鎖療法は悪性腫瘍がある創傷には禁忌とされており、皮膚悪性腫瘍切除の際、断端所見に関する病理学的評価が確定するまでは適用することができない。われわれは、メラノーマ細胞をマウス背部に移植し、局所陰圧閉鎖療法を適用するモデルを用いて、実際に悪性腫瘍がある創傷に対して局所陰圧閉鎖療法がどのような影響をもたらすのかについて検証を行っている。これまでに得られた知見に関し報告する。

頭頸部原発皮膚悪性腫瘍における原発部位とリンパドレナージパターンの解析と予後に関する検討

西尾卓哉

当教室では頭頸部原発皮膚悪性腫瘍の治療に際して、耳下腺リンパ節や浅頸部領域のリンパ節の重要性に注目してきた。統計学的手法を用いて原発部位とリンパドレナージパターンの間の関連を後ろ向きに検討することで、浅頸部領域のリンパ節の重要性やリンパ節転移と遠隔転移に関する知見を得たので報告する。

羊膜由来間葉系幹細胞による感染性糖尿病性潰瘍における細菌抑制作用の検討

石井　陸

羊膜由来間葉系幹細胞はヒト胎盤から採取可能な体性幹細胞であり、種々の生理活性物質を放出することで血管新生、創傷治癒促進などに働く。他ソース由来の間葉系幹細胞では細菌増殖抑制作用が報告されているが、羊膜由来間葉系幹細胞では定かではない。本研究ではin vitroでの細菌抑制作用と、黄色ブドウ球菌が感染した糖尿病性潰瘍に対し細菌増殖抑制および創傷治癒促進作用を持つことを明らかにしたためこれを報告する。

腫瘍溶解性ウイルスと抗PD-1抗体の併用によるメラノーマ免疫賦活化の検証

佐々木雄輝

近年新たな薬物療法として注目を集めている腫瘍溶解性ウイルスは、直接腫瘍を破壊するのみならず、宿主の免疫を賦活化することで全身に抗腫瘍効果を発揮する。本研究は、腫瘍溶解性ウイルスと抗PD-1抗体の併用による免疫賦活化の機序を、二次リンパ組織であるリンパ節や脾臓の抗原提示後の機能性変化という点から詳細に検討することを目的とする。現在までに得られた知見について報告する。

マウスにおける異所性リンパ節移植によるリンパ流誘導への試み

徐　東經

リンパ節摘出後、リンパ流が変化している領域にリンパ節を移植することによってリンパ流やリンパうっ滞パターンの変化有無を検証することを目的とする。マウスの膝窩および鼠径リンパ節を摘出し、マウス後肢のリンパ流を破綻させ、その領域にリンパ節を移植し、移植後のマウス後肢リンパ流をICG蛍光造影、パテントブルー色素注入法などを用いて観察する。移植されたリンパ節へ新しいリンパ流の誘導やリンパうっ滞のパターンの変化を認めなかった。

マウス熱傷モデルを用いた羊膜由来間葉系幹細胞の皮膚深達性急性創傷に対する効果検証

松田識郁

熱傷治療は日々進歩しているものの、依然として感染や全身状態などさまざまな要因により創傷治癒が遅延することが知られている。羊膜由来間葉系幹細胞から放出されるエクソソームが熱傷による急性創傷に与える影響について、マウス熱傷モデルを用いて検証した。現在までに得られた知見を報告する。

Session 2

教育セミナー

（16:15~17:00）45分
Moderator：舟山恵美

「最新の皮膚悪性腫瘍治療指針：NCCN＆皮膚悪性腫瘍診療ガイドラインを読み解く＆症例供覧」

北海道大学病院 形成外科 診療准教授　**前田　拓**

皮膚悪性腫瘍の治療に関して、国内では取扱い規約ならびに診療ガイドラインが参考になります。しかし、悪性黒色腫のセンチネルリンパ節陽性症例の扱いに関しては注意が必要であり、ガイドラインの記述は参考として理解する必要があります。

近年、免疫療法が登場し悪性黒色腫の治療内容が大きく変わりました。また本治療はその他の上皮系悪性腫瘍にまで適応が拡大する可能性もあります。複雑化した皮膚悪性腫瘍の治療内容について確認し症例も交えて皆様と議論したいと思います。